

令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. 会議の開催

(1) 総会 [議案書郵送による審議]

- ・理事会開催直後、企業会員に対し議案書を郵送し、5月27日(木)までを期限として、書面審議を行った。
- ・3月末時点での企業会員数147社に対し、110社から回答(回答率74.8%)があり、令和3年度の議案書(昨年度実績と本年度事業計画)については、提案のとおり承認された。

(2) 理事会

1) 第1回理事会 令和3年4月23日(金) 15:00～ 事務・教養棟2階 会議室B 出席者28名

- ① 令和3年度 通常総会議案書(案)について
- ② 年度毎の事業経費の推移(設立時～令和3年度)について
- ③ 年間活動日程について

2) 第2回理事会 令和3年10月15日(金) 事務・教養棟2階 会議室B 出席者29名

- ① 今年度の会員動向について(令和3年4月以降)
- ② 共同研究、受託研究、技術相談の支援について
- ③ 今年度の主な事業の中間報告(令和3年9月30日現在)について
- ④ 今後の事業の実施について[企業ガイドブック2021の作成、出前講座、企業紹介デジタルサイネージの整備、高専卒業生の転職、Uターン就職希望者など]
- ⑤ 会員増強について(当面150社、最終300社を目指す。)
- ⑥ 会員企業への就職学生数について

2. 事業の実施

(1) 会員企業との共同研究等による研究協力の推進

1) 共同研究・受託研究への支援

[支援内容：会員企業からの共同/受託研究費(間接経費10%を含めた研究費)の20%を、担当の高専教職員に寄附金として助成する。但し、1件20万円を上限とする。]

○共同研究：3件

- ・株式会社ディ・アンド・ディ(平井教授他3名) 1,200,000円(20万円助成)
- ・トーカロ株式会社(兼松教授他1名) 4,550,000円(20万円助成)
- ・エイベックス株式会社(板谷准教授他5名) 3,000,000円(20万円助成)

○受託研究：0件

※助成金総計：60万円 (R3年度予算額：150万円)

2) 会員企業の技術相談に関する助成

[支援内容：同様な内容の技術相談が1年以内に2回以上に及ぶ会員企業からの相談料は、2回目以降も無料とし、相談担当の高専教職員に寄付金として助成する。]

第1号議案

○技術相談：6社

・株式会社豊電子工業 横山教授(1回で終了)	助成	0円
・株式会社豊電子工業 板谷准教授(1回で終了)	助成	0円
・内外化学製品株式会社 兼松特命教授(1回で終了)	助成	0円
・株式会社光機械製作所 黒田教授(1回で終了)	助成	0円
・パナソニック株式会社アプライアンス社 平井教授(1回で終了)	助成	0円
・株式会社エッチ・エム・イー 板谷准教授(2回目以降支援)	助成	13,500円
・株式会社エッチ・エム・イー 黒田教授(1回で終了)	助成	0円
・三重金属工業株式会社 黒田教授(2回目以降支援)	助成	13,500円

※助成金総計：13,500円 (R3年度予算額：5万円)

3) 会員企業の研究設備利用

〔優遇制度：通常使用料から30%減額にて適用される。〕

- ・株式会社松阪鉄工所 1件
- ・株式会社光機械製作所 3件
- ・小山鋼材株式会社 4件

4) 会員企業との共同研究等推進に関する助成

〔ランチタイムミーティング等により、企業会員と共同研究等における新たな研究テーマの創出ができた場合の研究推進費として支援する。〕

○企業会員との共同研究等における研究推進：0件

※助成金総計：ー円 (R3年度予算額：80万円(40万円×2件))

5) ランチミーティングによる取組み

〔共同研究等における鈴鹿高専との研究推進を目的として支援する。〕

○企業会員とのランチミーティングによる取組み：0件(会員企業外との実績3件あり)

(2) 産学官の人的、情報交流の促進

企業交流会・・・[令和3年11月17日(水)開催]

- ・招待講演、会員企業の紹介、高専教員の研究紹介、創造工学「各学科優秀作品」紹介と表彰など
- ・会員企業と学内教職員の約40名が参加した。

※支出総計：35,000円(R3年度予算額：6万円)



企業交流会開催様子

(3) 会員企業の技術向上に関する支援

1) 企業技術者対象の講習会・・・[6月21日(月)実施通知]

- ・8月中旬から9月下旬を実施期間とした。
- ・講習期間は3日程度を基本とし、会員企業が希望する技術者育成の内容に応じて実施することとしていた。
- ・技術者育成の内容や参加希望人数などをA4用紙1枚程度で作成依頼した。
- ・結果として、会員企業からの実施要望はなかった。

第1号議案

※支出総額計： — 円(R3 年度予算額：8 万円)

2) 会員企業見学会の実施・・・[7 月 27 日(火)中止通知]

- ・コロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、本年度は中止とした。
- ・会長、副会長との相談した結果を7 月 27 日(火)に会員企業へメール通知した。

※支出総額計： — 円(R3 年度予算額：5 万円)

3) 鈴鹿高専教員の企業訪問による『出前講座』の実施・・・[6 月 21 日(月)実施通知]

- ・8 月中旬から9 月下旬を実施期間としてメール通知
- ・鈴鹿高専テクノプラザ・出前講座メニューから希望される講義可能内容等を選択頂く。
- ・先に記載した実施期間を過ぎても随時受け付けて頂くこともお知らせした。
- ・株式会社伊藤製作所(9 月 9 日(木)、9 月 17 日(金)実施)
- ・小山鋼材株式会社(10 月 19 日(火)、11 月 9 日(火)、12 月 14 日(火)実施)
- ・株式会社エッチ・エム・イー(1 月 24 日(月)、2 月 21 日(月)実施)
- ・住友電装株式会社とは、次年度の8 月 30 日(火)～9 月 2 日(金)に開催することを決定

4) 講演会の開催

- ・令和2 年度教育研究経費(校長裁量経費)実施報告会・・・[12 月 17 日(金)開催]
会員企業から約 15 名の方にご参加頂き、16 名の教員が報告を行った。
- ・鈴鹿高専せれんでクラブ講演会・・・[3 月 8 日(火)開催]
コロナウイルス感染症拡大防止の観点から Web 配信とした。(講演:教養教育科 松岡講師)
- ・鈴鹿高専、SUZUKA 産学官交流会との合同企画による講演会・・・[2 月 10 日(木)実施通知]
12 月 20 日(月)に開催された「SUZUKA 産学官交流会第2 回役員会」において、今後の講演会等における実施方針が決定され、3 月 4 日(金)に「合同産学官交流フォーラム」(オンライン特別講演のみ)が実施された。

5) メールによる会員企業向けの情報提供

- ・航空業界 News [航空宇宙人材育成/ASK 代表 川合勝義氏からの配信]
- ・第 10 回 SUMS-NITS 医工連携研究会 [9 月 24 日(金)開催]
- ・第 11 回 SUMS-NITS 医工連携研究会 [2 月 21 日(月)開催]

(4) 人財確保の支援、会員企業 PR 等

1) 「企業ガイドブック 2021」の作成と学生への配布

- ・企業会員 131 社分を掲載し製本して、第3 学年、第4 学年及び専攻科1 年次の学生に配布するとともに、鈴鹿高専教職員に配布して、会員企業を紹介した。(全 148 頁/部、530 冊)

※支出総額計：約 51 万円(R3 年度予算額：約 74 万円)

2) 合同業界説明会での会員企業紹介・・・[12 月 8 日(水)開催]

- ・コロナウイルス感染症防止対策を講じたうえで、対象学年を第4 学年と専攻科1 年次のみとし、参加会員企業も 60 社に限定しての開催とした。



企業ガイドブック 2021 の発行



合同業界説明会開催様子

第1号議案

- ・2部構成とし1部につき3つのタームを設け、フリータイム(学生が企業ブースを自由に選択できる時間)も設定した。
- ・開催後にアンケートも実施し、概ね満足を頂いた結果となった。

※支出総額計：18,750円(R3年度予算：20万円)

3) 高専祭での会員企業展示・・・〔10月1日(金)中止通知〕

コロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、学生で構成する高専祭実行委員及び高専祭を担当する教職員から構成される学生委員会において、「今年度の高専祭(10/30-10/31開催)は中止とする」との判断に至った。

※支出総額計：－円(R3年度予算額：15万円(ポスター製作)+1万円(パンフレット製作))

4) 鈴鹿市ものづくり企業交流会での活動紹介・・・〔1月23日(日)開催〕於：鈴鹿ハンター

GEAR5.0 マテリアル紹介、研究紹介(材料工学科 助教 河合里紗)、鈴鹿高専テクノプラザ紹介など、パネル展示によるPRを行った。

5) 企業会員の情報共有における企業取組み発信

企業会員間における技術的交流を促進するため、ホームページ上に各企業の業種等の情報を掲載した。(企業会員のみが閲覧可能)

6) 高専卒業生の転職、Uターン就職希望者

- ・鈴鹿高専テクノプラザホームページ上に「鈴鹿高専テクノプラザ：人材確保の支援(会員企業と鈴鹿高専生やOB転職者希望者の輪を活かし即戦力人材の確保へ繋がります。)」として掲載している。
- ・青峰同窓会報2021版(R3年8月発行)に「鈴鹿高専は皆さんのUターンを支援しています」として掲載した。
- ・本年度は、コーディネーターを含む事務局に鈴鹿高専卒業生からの問合せが数件あり、一昨年度に三重労働局と協議した内容を踏まえて、法に抵触しない範囲で対応した。

7) 高専OBによる知的シルバー人材活用

- ・先に記載した「会員企業への訪問による出前講座」への対応として、鈴鹿高専を退職した教員OB数名と調整し、次年度実施体制の確立を図った。
- ・また、鈴鹿高専が実施する地域交流としての出前授業にも活用できないかの検討を行った。

8) 銘板の増設

鈴鹿高専を支援頂く企業会員、特別会員、個人会員を本校の教職員や学生に紹介するとともに、来校者にPRし入会を推進した。



テクノプラザ企業会員等の銘板

(5) 高専の教育、国際交流の充実および学生との交流の促進

1) 高専の技術者教育・・・卓越したグローバルエンジニア育成事業特別講義

- ・米国ニューヨーク州 Clarkson大学 Dana M. Barry研究教授

第1号議案

日 時：9月22日(水) 9:00-10:30 オンライン開催

演 題：ニューヨーク州北部の生活と女性のための研究

・米国モンタナ州 モンタナ州立大学バイオフィルムセンターDarla M. Goeres研究教授

日 時：9月24日(金) 9:00-10:30 オンライン開催

演 題：バイオフィルム・レンズから見たミクロの世界_STEMにおける女性研究者の探求

※支出総額計：70,000円(R3年度予算額：5万円(講師謝金等))

2) 高専祭学科展示作品の審査と優秀作品の表彰・・・〔10月1日(金)中止通知〕

コロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、学生で構成する高専祭実行委員及び高専祭を担当する教職員から構成される学生委員会において、「今年度の高専祭(10/30-10/31開催)は中止とする」との判断に至った。なお、11月17日(水)に開催した企業交流会で各学科から選出された創造工学における優秀作品を表彰した。

※支出総額計：25,000円(R3年度予算額：3万円)

3) 学生海外派遣支援

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム高校生コース第7期に合格した第3学年(電気電子工学科、生物応用化学科、材料工学科)4名の学生を支援することで鈴鹿高専の担当係と調整をしたが、結果的に支援には至らなかった。

※支出総額計：－円(R3予算額：10万円(5万円×学生2名))

4) 会員企業による授業支援

専攻科グローバル・リーダー論等の授業において、企業会員の技術者を活用し国内外を問わず活躍できる人材育成支援を行った。

(6) 企業会員、個人会員増強

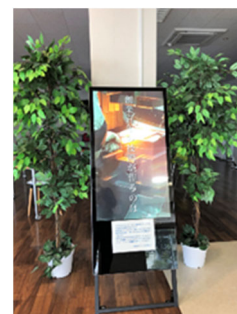
- ・本年度の目標であった「会員企業を150社まで増やす」については、目標達成となった。(来年度の目標は160社とする。)
- ・コーディネーターを新たに雇用し、安定的な鈴鹿高専テクノプラザの事業推進と鈴鹿高専との産学連携を加速させた。

※支出総額計：160万円(R3年度予算額(CD雇用経費)：160万円)

- ・個人会員については、終身会費3万円として既に会則等を見直しており、また、青峰同窓会会報等によるPR活動も行っているが、伸び悩んでいることから、来年度以降も会員増における取組みを継続する。

(7) そ の 他

- ・「企業ガイドブック」、「高専祭での企業紹介」や「合同業界説明会」のみで学生への情報提供を留めることなく、常に学生が行き交う場所で会員企業を紹介し、全学生における就職支援へと繋げることを目的として、デジタルサイネージを整備した。
- ・なお、電子情報工学科棟1階、生物応用化学科棟1階、マルチメディア棟1階の3箇所に設置した。



マルチメディア棟1階
(コノハナラウンジ)

第1号議案

※支出総額計：約101万円(R3年度予算額：50万円)

- ・鈴鹿高専における創立60周年記念事業への協力として、会長、副会長了承のもと、協賛金を寄附した。(7月16日(金)メール確認済み)

※支出総額計：10万円(R3年度予算額：10万円)

3. 会員企業への就職学生数について

- ・平成25年度：会員企業7社に11名
(機械工学科：2名、電子情報工学科：2名、生物応用化学科：3名、材料工学科：4名)
- ・平成26年度：会員企業6社に7名
(電気電子工学科：1名、生物応用化学科：2名、材料工学科：4名)
- ・平成27年度：会員企業4社に10名
(機械工学科：1名、電気電子工学科：2名、生物応用化学科：3名、材料工学科：3名、電子機械工学専攻：1名)
- ・平成28年度：会員企業9社に17名
(機械工学科：4名、電気電子工学科：2名、電子情報工学科：1名、生物応用化学科：2名、材料工学科：8名)
- ・平成29年度：会員企業9社に15名
(機械工学科：5名、電気電子工学科：2名、電子情報工学科：0名、生物応用化学科：4名、材料工学科：4名)
- ・平成30年度：会員企業10社に14名
(機械工学科：3名、電気電子工学科：0名、電子情報工学科：0名、生物応用化学科：7名、材料工学科：3名、応用物質工学専攻：1名)
- ・令和元年度：会員企業16社に18名
(機械工学科：0名、電気電子工学科：2名、電子情報工学科：1名、生物応用化学科：5名、材料工学科：7名、応用物質工学専攻：3名)
- ・令和2年度：会員企業16社に26名
(機械工学科：6名、電気電子工学科：5名、電子情報工学科：2名、生物応用化学科：5名、材料工学科：7名、総合イノベーション工学専攻：1名)
- ・令和3年度：会員企業15社に27名
(機械工学科：8名、電気電子工学科：4名、電子情報工学科：1名、生物応用化学科：4名、材料工学科：5名、総合イノベーション工学専攻：5名)

第1号議案

4. 会員数の推移について

	企業会員	個人会員	特別会員	退会企業
平成25年 設立総会(3月)	27社	2名	2団体	－社
平成26年度 総会(5月末)	47	4	8	8
平成27年度 総会(5月末)	50	4	9	1
平成28年度 総会(5月末)	58	6	10	3
平成29年度 総会(5月中旬)	63	6	11	1
平成30年度 総会(5月末)	94	9	12	1
令和元年度 総会(4月末)	116	15	12	3
令和2年度 総会(4月末)	128	18	13	6
令和3年度 総会(3月末)	147	18	13	2
令和4年度 総会(3月末)	154	20	15	8